

平成28年度インシデント・アクシデント報告から講じた医療安全対策事例

病院	領域別	インシデント・アクシデント概要	安全対策
総合	薬剤	<p>事例1 異常時指示使用のため処方箋をプリントし、ダブルチェックをして薬剤を調剤、投与開始した。翌日他看護師より、「処方箋では生食200mlとニカルジピン5Aの混中投与となっているが、生食500mlのボトルで投与されているため、調剤間違いではないか」との問い合わせあり。指示の半分の濃度で投与していたことがわかった。</p> <p>事例2 「ハンプ3V+5%糖注100ml 4ml/h」指示のものを、「5%糖注50ml」に溶いて4ml/hで投与開始してしまった。</p>	<p>指差し呼称時のチェック項目が決められていないことに着目し、チェック項目（患者名、薬品名、用量、単位、用法）を決めた。またチェック項目を覚えやすい合言葉にし、職員に周知した。</p>
総合	薬剤	<p>検温のため訪室すると、汗だくでベッドに座っている患者を発見。患者より「今日の朝、家からの薬も全部飲んでと先生に言われたから全部飲んでいる」と報告あり。指示を確認すると、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持参薬のアーチスト2.5mgは入院時より中止の指示があり、中止と記載された袋に入れられ患者に返却されていた ・『14日からアーチスト（カルベジロール）再開』の指示があり、入院処方でカルベジロール2.5mgが処方されていた <p>上記の指示と患者の話より、患者は処方された薬と中止されていた持参薬の両方を内服したことがわかった。</p>	<p>持参薬が中止になったことを患者・家族に理解してもらうため、【持参薬中止の紙】を作成した。中止の際は持参薬をビニール袋にまとめ中止の紙を貼ることで「持参薬中止」であることを明示するようにした。</p>
総合	薬剤	<p>薬を配薬する際、2錠/回の薬を1錠しか配薬せず、過少投与となってしまった。</p>	<p>与薬した薬の数と残薬の数を毎回記載する表のスタンプを作成した。1回複数錠配薬する場合、スタンプを薬袋に押すことで、複数錠配薬であることを注意喚起し、なおかつ毎回配薬数を確認する運用にした。</p>

こころ	検査	検査室の検体提出について。事前に電話連絡が必要な検査があるが、徹底できていなかった。	検体保管ケースに必要事項を明記したカードを入れ、手順が徹底できるようにした。
こころ	施設・設備	階段から廊下に通じる外開きのドアが人に接触するリスクがあったため、注意喚起ポスター・ドア開閉表示テープを貼り、対策を講じていた。しかし、開いたドアが廊下を歩いていた面会者の上腕に接触するインシデントが発生した。	注意喚起ポスターをわかりやすい内容にして表示した。また、ドア開閉表示テープのエリアの拡大を行い、ドアの開放エリアであることをさらにわかりやすくした。ニュースも発行し、職員に注意喚起した。
こども	機器	<p>シリンジポンプで薬液注入中に速度変更した覚えがないのに速度が変更されていることがあった。</p> <p>これは、機器の特性としてポンプ注入作動中以外である「停止中」および「警報消音中」に速度設定の数字ボタンに無意識に触れ、押されると、速度が変更されることがわかった。</p>	<p>シリンジポンプのメーカーと協同し機器の設定を特注モードとした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設定速度を変更する場合は「C」ボタンを押してから「数字」ボタンを押さないと速度が変更できない。 ・速度の10倍設定を防止するために、速度数値は小数点以下まで入力しないと機器が作動を開始しない。
こども	薬剤	患者A・B・Cの麻薬受領時に1処方せん毎の払い出しを受けたが、運搬時に3名分の処方せんと薬剤を重ねて運搬したことで、病棟金庫保管時に患者A・Bの麻薬が混在し、準備時に他の患者の薬剤まで吸い上げた。	<p>麻薬専用トレイの導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受領・運搬・保管・返却の行程は、院内統一の専用トレイを薬剤室が管理し、「1処方せん。1トレイ」として院内統一を図った。
こども	検査	<p>患者身体装着物品が磁性体であることに気づかず検査を実施し、画像に歪みが生じた。</p> <p>また、各スタッフに磁性体情報の把握量のばらつきがあり、患者搬送後に磁性体情報把握スタッフから指摘を受け、検査の進行の遅れとなることがあった。</p>	<p>磁性体情報共有システムの構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電子カルテ掲示板に、当院採用診療材料に関するMRI適応「可・不可・条件付き可」及び被害「患者・製品・画像」情報を掲載した。 ・診療材料採用申請時にMRI適応及び被害情報の提出も義務づけた。 ・採用品目追加時に掲示板情報の更新を随時行う。